

④6新石川県立図書館整備事業 (めぐる・めくる・めくるめく図書館整備)

受賞機関 石川県 土木部 営繕課
石川県 県央土木総合事務所

キーワード 公園のように訪れる図書館

全建賞審査委員会の評価ポイント

図書館機能の強化、ユニバーサルデザイン化に加え、交通利便性の向上を図り、知的で活気とにぎわいに満ちた公共施設を整備。図書館利用促進のため、回遊性を重視した動線計画や多様な閲覧空間を工夫。さらに、モックアップでの検証を踏まえ、障がい者等に配慮した設計を実施した点が評価された。

1. はじめに

石川県立図書館は、加賀藩所蔵の資料を一部引き継ぎ、明治45年に兼六園内で開館したことに始まる。以来、長年にわたり県民への図書サービスを担ってきた歴史ある施設であるが、建設から半世紀以上が経過し、老朽化・狭隘化、耐震性能の不足が課題となっていたため、機能の充実を目指して移転・建替え整備を行った。

2. 事業の概要

～基本コンセプト～

「県民の多様な文化活動・文化交流の場として、
県民に開かれた『文化立県・石川』の
新たな“知の殿堂”」



本のページを“めくる”ような外観デザイン



円形劇場のような大閲覧空間

内部は段状の通路と書架が立ち並ぶ円形劇場のような大閲覧空間を“めぐり”ながら本との出会いを楽しんでいただける空間とした。その他、アスレチックのような

大型家具を備えた子どもエリア、食文化やものづくりの体験スペース、屋外の読書空間など、多様な付加機能を設け、来館意欲を高める工夫を随所に盛り込んだ。

3. 事業の成果

①ユニバーサルデザイン（以下「UD」という。）

設計及び施工段階において、肢体不自由、視覚、聴覚、発達障がい各団体から意見を聴取し、施工時には閲覧エリアのモックアップ（実物大模型）を製作し、障がい者の協力のもと細部を検証し、UD化を図った。



モックアップによるUD検証の様子

②他施設との協働

来館者の交通利便性の向上のために整備したアクセス道路は、同時期に移転・建替えを行っていた金沢美術工芸大学と協力して整備した。それぞれの建物外観の色調を舗装材に取り込み、調和を図り、さらに無電柱化も進め、景観に配慮した。



図書館・美大と調和を図ったアクセス道路の整備

4. おわりに

整備に当たり、多くの方々の力を集結し、開館できたことに深く感謝申し上げるとともに、今後も『石川の文化拠点』として、それぞれの人生に寄り添い、永く親しまれ、地域とともに成長していく図書館となることを願っている。

賛助会員 清水建設(株)